

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
E-mail: shimpoh-c@uccj.org
発行人 竹 前 昇
編集主筆 竹 澤 知 代 志
印刷所 株式会社きかんし



聖ヶ丘教会

新春・議長 メッセージ

マタイによる福音書二章一〜二節

別の道を通って



山北 宣久

決意

「誓うより願うばかりの初詣（読み人知らず）私たちは、決意を以って新年を歩み出したい。教会の頭なる主イエス・キリストが我らと共に導いて下さるのであるから。」

「新しい年は新しい機会である。神は我々を祝福し給うゆえに、かれを中心として、愛と平和と兄弟愛と正義の共同体を創り出すよう挑戦し給うのだ。」

継続

「占星術の学者たちが訪れる」といった箇所を新年に読むことを訴しく思う向きもあるかも知れぬ。しかし、この日課はこれである。大体一月六日のエピソード（公現日）までがクリスマス・シーズ

転換

こんな話を聞いたことがある。「海釣りに行った人が夢中になっていっているうちに帰りの方角が分からなくなってしまう。懐中電灯やランプやあらゆる光をつけて方角を探していた。その時『明かりを消せ！』との声がかかった。目が慣れると闇の中から対岸の灯が見えてくるではないか。こうして遂に方向、方角を取り戻した」

自分の助けとなるべきものが案外助けになっていないことがある。人工的な自らの光を消して、暗い中で佇む方がよく見えてくる。こんな話に聞いたことがある。「これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であったとある（二三節）。

ヘロデ

かさが我々をくらえ、世界を貫く真理であるゆえに、来る日も、来る日もクリスマスとして祈りと業とを継続させていくのだ。ワルター・リユティが元旦の黙想の中で「私たちは降誕祭から歩みはじめている。降誕祭は、今や過ぎ去ったのではない。降誕祭は今あり、この一年全体を貫いて存在している」と記している。

さて「ひれ伏して幼子を拝み」最初のクリスマス礼拝者となった学者たちはヘロデ王に対して決してひれ伏しも拝みもしなかった。この世の権力者に追従せず、まことの神のみ礼拝すること、その姿勢を貫く。ヘロデは「狐のように王位につき、虎のように支配し、豚のように死んだ」と言われている人物である。しかし奪う・従わせる・無きものとする」といったことを当然とすることであらう。

別の道

「小さな事物に対する人間の感じ易さと、大きな事物に対する人間の無感覚とは奇妙な顛倒のしるしである（パスカル）」

「小さな事物に対する人間の感じ易さと、大きな事物に対する人間の無感覚とは奇妙な顛倒のしるしである（パスカル）」

「小さな事物に対する人間の感じ易さと、大きな事物に対する人間の無感覚とは奇妙な顛倒のしるしである（パスカル）」



「リプレイ」というベストセラー小説がある。主人公は、題名通り何度か何回も人生をやり直す。読むと惹きつけられるが、改めて紹介する程の内容はない。▼

「リプレイ」というベストセラー小説がある。主人公は、題名通り何度か何回も人生をやり直す。読むと惹きつけられるが、改めて紹介する程の内容はない。▼

い弁護士になり、敵には最も厳しい検事となる」と言われる。では何処で変えられるのだろう。まことの愛に出会った時にこそ変えられるのだ。

人の救いのため来たり給うた幼子、人間が不死の生命を得るために自らは死ぬ、そのための誕生たるを愛の直観によってなした学者たちは、ひれ伏して拝した。自らの力で変わったというより、御子を礼拝することによって変えられたのである。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

山梨県民クリスマス

40 年の歴史を刻む教会一致運動



指話で「もろびとこぞりて」を歌う森氏と教職たち

「第22回県民クリスマス」が二月三日(土)に甲府市横根の山梨英和大学クリンバンクホールにて行われました。クリスチャン・アーティスト森祐理さんの歌と証、一致懇聖歌隊による賛美、そしてハンドベルクアイア・アクアによる演奏がありました。アクアは年前中は甲府刑務所にて受刑者の前で演奏をしてからの会場入りでした(大人・子ども合せて二〇人の参加)。「県民クリスマス」は山梨県教会一致懇談会の主催ですが、この懇談会の始まりは、甲府市内のカトリック教会、聖公会、プロテスタント諸教会などの教職の共同の研究会にその端を発し、その後一般信徒も加わり、愛餐会を行ったりする中から、だんだんその広がりを見せ、甲府市内のみならず、県下全域にわたる教会一致運動に発展してきたものです。一九六五年発足で今年で四〇年の歴史を刻んできたことになります。六六年には世話人会がつかれました。その構成員は、カトリック、教団愛宕町、聖公会、山梨英和、山梨YMCA、となっていました。

六八年から新年一致祈禱週が始まります。一月下旬の厳寒の一週間毎夜、教派を超えて教会に集い、祈禱会を持つということをしています。今年で三九回目になります。祈禱に先だって立証があり、地域のキリスト者としての絆が強められてもいます。「山梨エキュメニカルユース」を定期的に発行していますが、昨年の報告が次のように記されています。

2005 年 一致祈禱会(連夜祈禱会)			
日(曜)	会場	立証	人数
21 日(火)	福音ルーテル甲府教会	教団／甲府中央教会	57
22 日(水)	甲府キリスト福音教会	教団／韮崎教会	72
23 日(木)	教団／市川教会	同盟樹形キリスト教会	30
24 日(金)	教団／南甲府教会	山梨バプテスト教会	53
25 日(土)	甲府聖オーガスチン教会	在日大韓甲府教会	40
26 日(日)	教団／愛宕町教会	キリスト教自然学園	103

※出席者延べ人数 355 名、皆勤 10 名、準皆勤 10 名、献金総額 232,632 円



一致懇聖歌隊とハンドベルクアイア・アクアによる賛美

最終日は持ち寄りの夕食会をします。その中で皆勤者には記念品を差し上げています。過去の資料を見ますと第四回一九七一年が残っているのですが、出席者述べ人数二五九名で献金総額は二万三一九六円とあります。永年に亘り、さかん

に祈りつづけてきたことがわかります。高年齢化にもかかわらず参加人数は減ることはないのです。また新年一致祈禱週の始まる前には「クリスマス病院訪問プログラム」がありました。甲府市内の病院や老人ホームを訪問して讃美歌を歌うことなどを超教派で行っていたのです。これが市民クリスマスに代ったのです。一九六四年の第二回市民クリスマスのプログラムには市民クリスマス準備委員長の左記の挨拶文がのっています。

「今年も早くも師走の月に入り、キリストの誕生を祝う人類の祝日クリスマスが近づいて参りました。私共、甲府市内にあるキリスト教団体は昨年にひきつづき、第二回市民のクリスマスの夕を開催することになりました。厳粛な礼拝と御子降誕を祝うメサイアの演奏を通じて、もろもろの人を照らす真の光、平和の君なる主キリストご降誕の深い意義を共に学び考えたく存じます。そしてキリストを迎える感謝と賛美の歌声を高らかに響かせましょう。何卒、クリスマス・イヴ当日はキリスト者である」と否とを問わず、広く甲府市民の皆様方が、御家族友人等、誘い合って多数御参加下さいますようお願い申し上げますとありました。そして、第一部礼拝、第二部メサイア、第三部キャロルをうたおう、との構成であり、甲府市長も祝辞を述べてもいるのです。

0422 市民クリスマス

武蔵野・三鷹の諸教会が平和を希む

0422とは「0422」って、引越し屋さんですか?」教会員からもちろ尋ねられたことがありますが、そうではありません。これは東京都武蔵野地域(武蔵野市・三鷹市)の電話局番です。現在では多くの自治体で、市外局番が二桁ないし三桁になる中、この地域だけはNTTの都合上、0422のままです。しかしこれは三〇年以上も「0422キリスト教会合同プログラム実行委員会」を組織している教会にとって、ありがたいことです。



子どもたちによるハンドベル

老教会、聖書集会、単立国際基督教大学教会)そして東京YMCA西東京センタール、東京YWCA武蔵野センターが教派の違いを超え、共に平和を希求しつつクリスマスなどの集いを協

スに対する思いと伝道意欲を強く感じることができまう。そして一度とぎれてしまった市民クリスマスが、一九八四年、県民クリスマスとして行われるようになって第二回を迎えることができたのです。また甲府市にある千代田霊園には教会墓地が多くある区画があります。キリスト教墓地との看板もでいてますが、そこでイースターの朝六時一五分に超教派で早天礼拝をまもっています。その後、それぞれの教会で墓参をします。近隣の(白鳥彰報／山梨県教会一致懇談会世話人代表

教会に朝食のサンドウィッチを用意してもらい愛餐会となります。そして、教会に戻りますが、百名以上の参加者があります。また山梨県教会一致懇談会で行う、もう一つのこと

六三年に地域にある井の頭公園野外音楽堂でYMCAとYWCA、近隣の三教会が初めて共に礼拝しました。七〇年代になって、更に教派を超えて共に礼拝しようとの気運が高まり、呼びかけに応じた一二教会が参加。それぞれが分担金を拠出し、事務局をYMCAとYWCAが担当「0422の会」が発足したのです。活動内容は、クリスマスの意味を知ってもらおうと「市民クリスマス」を開催。最初の数年は持ちまわりだった会場も、吉祥寺駅から近いカトリック吉祥寺教会を主として、毎年二月初旬に開催されてきました。九〇年代には「イースター一致祈禱会」と「平和祈禱会」を加え、年三回の集会を実行しました。ただ二〇〇二年から諸教会の多忙さという事情により年三回の集会計画を改め、当初からの「市民クリスマス」に集中することになりました。更に三一回目となった昨年は、二月一日午後六時半からカトリック吉祥寺教会で開催。参加者は二三名でした。

役割を分担して

「0422の会」は教派を超えて協力する会ですから、プログラムもそれぞれ分担して担当します。司式、説教、聖書朗読、献金などの奉仕者を各教会から出し、みんなで進めてゆきます。特に今回は、有志による子どもたちのハンドベルと聖歌隊が結成され、会衆の賛美をリードしてくれました。聖書は視覚障害者、

小学生、またカトリックの神父と信徒によりタカログ語とリンカラ語で朗読されました。さらに武蔵野地域を拠点に活動しているゴスペルグループや歌手・陣内大蔵さんの歌も加わり、キャンドルサーヴィス全体が大変厚みのある内容となりました。

メッセージは日本基督教団武蔵野扶桑教会の定家修身牧師が担当。かつて自分が牧会していた教会のクリスマス礼拝中に、聖歌隊員の貴重品が全て盗難に遭ったというエピソードを交え、暗闇の中に輝く光として救い主イエス・キリストは来られたことをとても分かちやすく説かれました。席上献金はインド・パキスタン大地震被災者救援と昨年六月に発足し、武蔵野地域にいる約五〇〇人の野宿者のために活動している「一夜回三鷹(野宿者とともに生きる会)のためにささげました。その他、礼拝



市民クリスマス、12月10日

そんな中、目を見張ったのは「0422を消滅させるな」と立ち上がった信徒たちでした。スタッフの八割が信徒という顔ぶれが、様々な新提案を生み、諸教会の結束力を固めました。「0422」は、信徒によって恩を吹き返しています。(真壁蔵報)

企業人でありつつ信仰者として

池田守男資生堂会長が講演

東京教区西南支区キリスト教講演会が二〇〇五年一月二六日、聖ヶ丘教会を会場に開催された。今回の講師として池田守男氏(株式会社資生堂会長・

東洋英和女学院理事長)を迎え「与える喜び」の題で講演を聞いた。池田氏は青年時代、伝道献身者としてキリストに仕えるべく志を与えられ、東京神学大学へ入学した。しかし卒業を前に「やがて牧師になるにしても一度社会に出てからでも遅くはない」との思いから就職活動をし、資生堂へ入社することになった。「それからの人生、企業人でありつつ信仰者として生きる意味、与える喜びの重要性に気づかされてきた」と証した。

池田氏は、五代の社長の下で、長い秘書生活を経た後、社長に推薦された。「生涯、秘書を自任していた池田氏は「その器ではない」と思ったが、主日礼拝に通う銀座教会で出会った「Be just and fear not(正しくあれ、恐れるな)」という新渡戸稲造の書に力強く後押しされて、就任を受諾した。

愛の支配が届くために

東支区 新年礼拝

主の新しい年、二〇〇六年を祝って、東京教区東支区では、新年礼拝が守られた。一月一日(日・祝)、一四時から、銀座教会を会場として守られた礼拝では、マタイによる福音書六章二五節から三四節が朗読され、西新井教会の河合裕志牧師から「明日のことまで思い悩むな」と題して、新しい年の説教がなされた。

「日本の国、世界の国々において、様々なことが起こる。教会にも様々なことが起る。しかし主は共にいます。その信仰を持つて共に歩んで参りましょう」という新年の挨拶をもって始められた説教において、師は「明日のことまで思い悩むな」と題して、新しい年の説教がなされた。

ある井上馨牧師、横野朝彦牧師からそれぞれ、挨拶があり、特に横野師からは三〇年前の教団教師検定試験が行われなかった時代の思い出と、支えてくれた教会への深い感謝が語られた。信仰五〇年の対象者は九二名であったが、当日の出席は三〇名程度。折からの寒さのためか、また対象者の高齢化のためか、欠席者が非常に多かった。簡単に礼拝に集う事のできない、都心の教会の在り方が浮き彫りになった。

当日は日曜日、各自がそれぞれの教会で主日礼拝を守ってからの参加というところもあり、例年より少ない二八教会一七七名の参加となった。

十二月二〇日、逝去。九四歳。東京都に生まれる。一九四一年日本神学校卒業後、諏訪教会に赴任。その後、佐賀教会、門司教会を経て、六三年から九四年まで新栄教会を牧会し、隠退した。遺族は長男の栄一さん。

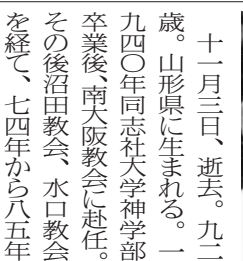


本田清一氏(隠退教師)



石塚 誠氏(隠退教師)

九三四年立教大学、三十九年プリンストン神学院卒業。六四年から七九年まで金城学院宗教総主事、七九年から八〇年まで、弘前学院院長を務め、九〇年隠退した。遺族は姪の北山璽子さん。



萩生田明二氏(二〇〇五・二十五年常議員会承認)

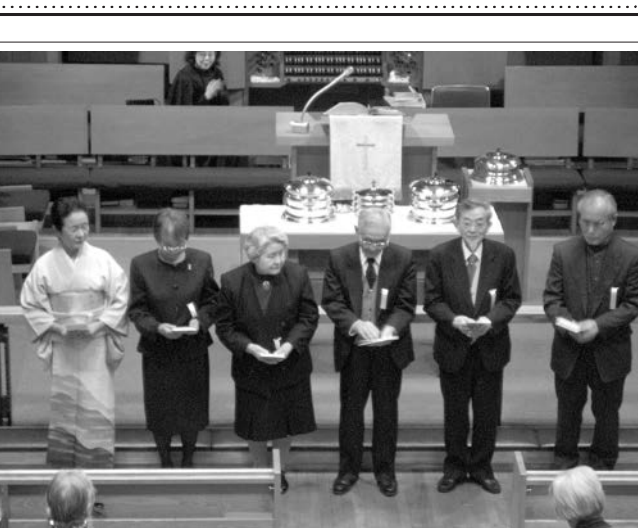
希望の春を待つ

新潟県中越地区の方と共に
三浦 修

私の人生の中で、大洪水に見舞われたのは故郷・山口県萩での少年時代、大雪には二八年間開拓伝道に従事した鳥取で、大地震は十一年前に姉弟が暮らしている兵庫県西宮の地(被災三日後に現地入り)でそれなりの体験をしました。

教区 コラム

唯一の教団の教会です。地方の最前線にある宣教の拠点を支え、守り抜く想いで一杯です。一〇月二三日の被災一周年を覚える記念礼拝には教団代表を始め、予想を



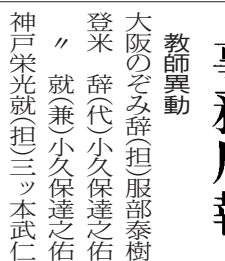
伝道30年・信仰50年を記念して感謝会

現代の不安、特に平和を求めること、現代の重荷を委ねる思いが、祈られた。聖餐式では、銀座教会・長山信夫牧師の司式のもと、多くの人がパンと杯に与った。全員で献げられる悔い改めの祈り、教派も、立場も関わりなくキリストに結ばれた多くの人々が、聖餐に与り、主の恵みを分かち合った。

礼拝の後、引き続き「東支区感謝会」が行われ、伝道三〇年・信仰五〇年を迎えた人たちに記念の品が贈呈された。

伝道三〇年の対象教師である井上馨牧師、横野朝彦牧師からそれぞれ、挨拶があり、特に横野師からは三〇年前の教団教師検定試験が行われなかった時代の思い出と、支えてくれた教会への深い感謝が語られた。信仰五〇年の対象者は九二名であったが、当日の出席は三〇名程度。折からの寒さのためか、また対象者の高齢化のためか、欠席者が非常に多かった。簡単に礼拝に集う事のできない、都心の教会の在り方が浮き彫りになった。

当日は日曜日、各自がそれぞれの教会で主日礼拝を守ってからの参加というところもあり、例年より少ない二八教会一七七名の参加となった。



富田 望氏(隠退教師)

事務局報

大阪のぞみ辞担(服部泰樹) 登米 辞(代)小久保達之佑 〃 就(兼)小久保達之佑 神戸栄光就(担)三ッ本武仁 中村栄光 辞(主)北川一明

幸町 四日市市新正一の十一の十八、一のA町田方

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

牧師のパートナー

「牧師先生、教会を愛してください。○子さん、教会から愛されてください」二年前の東舞鶴教会から夫が転任する時、後任の若い伝道者のご夫婦に私が言った言葉です。今思い出しても、何て生意気なことを言ったのかと顔が赤くなります。

私たちが一九年前、夫の初めての任地として東舞鶴に来ました。夫と見合いをして三ヵ月後のことです。牧師と結婚することになった私には思ってもみないことでした。心から信頼する方が間に入ってくださり、見合いをするようになった相手は牧師だったので。結婚式はまるで若い伝道者を送り出す壮行会のようなものでした。牧師の生活とはどんなものなのか、ノンクリスチャンの家庭に育った私には、さっぱり判りませんでした。

牧師夫人といえは、自分の信仰を育ててくれた牧師の尊敬する夫人しか知りません。でも、その夫人のようになるのはとても自分には無理！ 東舞鶴教会の方々に

「奥さん！」と呼ばれても自分のことは思わずに返事も出来ず、教会学校の説教をすればサムエルとサムソンを間違える。そんなふうに始まった生活でした。

東舞鶴教会では大好きな幼稚園という場を与えられ、毎日子どもたちとワーワーと楽しい日々でした。こんな私を東舞鶴教会の方々はとても大事に愛して下さいました。「奥さんいつもありがとう」と教会のおばあちゃんたちは優しく声をかけて下さいました。私には幼稚園の仕事がありましたので、一年後に生まれた娘を可愛がり、面倒見て育てて下さったのは教会の方たちでした。

主は生きておられる

小堀富士美
(富山鹿島町教会員)



教会の前で！ 今年は大雪

牧師の奥さんが本当に恵みを受けていると思うのは、教会で起る神様の御業をいつも機軸席で眺める事が出来ることです。これは神様が働いて下さらなければ起こるはずがない、と思えることがあちこちで起こります。夫の転任の話が持ち上がった時にも、「神さまが決められたことなら従おう、ただ神さまに付いて行く人生を送りたい」と素直に思えるようにまで変えてくれたのは、神さまであり教会です。「自分は愛された。愛していただいた」という思いでいっぱいです。ですから後任の若い伝道者のご夫婦の顔を見て、思わず冒頭の言葉が飛び出したのです。

富山鹿島町教会に来て、大好きな幼稚園の仕事は無くなりました。でも、毎週祈禱会に出ることが出来るようになりました。そこで、毎回教会員の方が「牧師の上に、牧師の家庭のうえに主の平安と祝福を！」と祈って下さいます。こんなにも祈っていただき、何て大きな恵みでしょう。

この原稿の依頼があった時、ちょうど近所の教会の牧師夫人とおしゃべりの真っ最中でした。「たいへん！ 牧師のパートナー“だって！”と話す、彼女はあっさり「私たちのパートナーは神様でしょ！」と言うのです。私より二〇才も若い彼女の言葉を聞いて、とても頼もしく思いました。何も無い私です。しかし、主はこんな私の手を取って下さり、そばに居て下さり、いつも生きて働いて下さいます。本当にありがたいです。この感謝を体いっぱい表現したいと願っている私です。

「隠退教師を支える運動」推進座談会について



東海教区の推進座談会

「隠退教師を支える運動」推進委員会は、一年に三回くらい、各地で「隠退教師を支える運動推進座談会」を開催して、この運動への参加・協力をお願いしています。

二〇〇五年度は先ず、九月一日(土)に東京教区・西南支区・南支区の各教会に呼びかけて、JR山手線恵比寿駅近くの「聖徒教会」で行いました。出席者は主催者側を除いて二七名でした。

次に、一〇月六日(木)に東海教区の東静分区・中静分区の諸教会を対象に静岡県沼津市の「沼津教会」で開催し、一八名の方が出席して下さいました。

どちらの会にも信徒の方々に加えて数名の教職も参加して下さいました。

この座談会では「私達信徒が毎月一〇・二〇〇円(一口以上)を捧げるこの目的・主旨・使い途」その他を説明いたします。献

金運動ですから、いろいろな質問や意見がありますが、それに対してなるべく具体的な例をあげて回答しています。

また各教会で、この「隠退教師を支える運動・一〇〇円献金」の係をして下さっている「献金担当者」の方達も出席されており、いつも戴く献金の振替伝票の通信欄で親しく接しているお名前の方にお会いし、挨拶を交わす時や、そのご奉仕をご自分の教会でしている事が何よりの喜びだと伺う時、大きな感謝と励ましを覚えます。

このような推進座談会を開催した後でいつも思う事は、「隠退教師を支える運動」は歩みを始めて二八年目であるにもかかわらず、まだまだ知られていないというのが現実です。

これからも、例えば、各教区などの諸教会に推進委員が出かけて行って協力を呼びかけたり案内文書を出すなど、あらゆる機会を生かして、推進活動を展開して行きたいと思っています。ご協力をお願いします。(多田信一報)

訂正 四五九三号三面、日本基督教団と台湾基督教長老教会との教会協議会欄、「謝世楷氏」を「許世楷氏」にお詫びして、訂正します。

ひととき

梶田知恵さん

漁られたキリスト者として



1978 年、東京生まれ。渋谷同胞幼稚園(豊沢教会)教諭。柿ノ木坂教会員。

「私は、絶対、病床洗礼」。家族が皆、会員となっている教会で、知恵さんのこの宣言は、よく知られていた。死の間際に洗礼を受けたい。そこまで逃げてみせる。そんな気持ちが込められた宣言だった。家族で一人だけ未受洗。周りからのプレッシャーは感じてきた。特に未受洗の自分は受けることができない聖餐のある日の礼拝は休むことが多くなっていた。

教会へは母のお腹の中にいるときから。小学校四年生までは教会学校に通った。その後、続けてきた水泳の強化選手に選ばれ、日曜日は練習。もともと行くのがそんなに好きではなかった礼拝を休む都合のいい言い訳ができた。水泳にはますます力

を入れ、高校はスポーツ推薦で強豪校に入学。活躍した。しかし、この水泳も高校まで。短大は幼児教育科に進んだ。母も姉も保育者。自分も保育者になることに抵抗はなかった。しかも就職活動はキリスト教保育幼稚園だけに絞って求人票を捜した。ここが不思議なところである。キリスト教に反感を感じながら職業としては教会とのつながりを求めた。園児としてキリスト教保育幼稚園に通った楽しい思い出があった。

教会幼稚園で働き、五年目に受洗。その年、園長との面接では毎年聞かれてきた受洗の意向について尋ねられなかった。自

分と考えないということだと理解した。出席教会では「人間をとる漁師になる」との説教を漁られる魚の気持ちで聞いた。この説教を聞いた後、牧師に洗礼希望を伝えた。ここで伝えなければ本心に病床洗礼になってしまふと思った。多くの人から受洗を勧められてきた。受験や就職を機に洗礼を勧める言葉もあった。しかし、最後はキリストの招きを自分で受け入れた。教会員として、教会学校教師の奉仕、特技の華道を生かして礼拝堂に生花を設える奉仕をする。キリスト教保育者としても七年目。中堅である。キリストに捕えられている私がいる。

聖書を読む

電車の中で声をかけられる。施設の元職員であった。その施設では毎週木曜日に礼拝をささげている。「いつも先生のお話を聞いていましたが、今はどんなお話であったか覚えていません。でも、聖書を読んだことは決して忘れていません。なんか、それが支えとなっているような」と言われる。

教会の集会はもうろんである。聖書を讀まなければならず、間違えるといけないので、と言われるのであった。確かに間違えて読まれる方もある。「心配はいりません。皆さんも聖書を見ているので

あり、理解されます」と言ったのがあるが…。

ある集会で聖書を輪読した。イエス様の「荒野の試練」で「サンタ」と読んでいた。本人は気がつかない。皆さんはさきりげなく先を読み続けた。どなたも笑いをこらえていることが分かる。また、別の集会で、ヒラトが二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と群集に尋ねたとき、「バラバを」と読まれた。「サンタ」、「バラバ」それなりにメッセージが示されてくるのである。

(教団総会書記 鈴木伸治)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩